

さいたま国際芸術祭 2023 市民プロジェクト「創発 in さいたま」

## 埼玉会館エスプラナード展 2023 今とわたし

ART SAITAMA 2023 SAITAMA HALL Esplanade ART Exhibition

2023.10/7(Sat)-11/5(Sun)

石上 城行、尾形 勝義、香月 人美、高島 芳幸、高田 芳樹、田中 千鶴子、中村 幸子、橋本 真之、細川 麻実子、本多 真理子、松枝 美奈子、む一村井 知之、柳井 嗣雄

主催：埼玉会館エスプラナード展実行委員会、さいたま国際芸術祭実行委員会

共催：(公財)埼玉県芸術文化振興財団

協賛：株式会社制作美術研究所

埼玉会館 WEB サイト

[www.saf.or.jp/saitama](http://www.saf.or.jp/saitama)



石上 城行  
IWAGAMI Shiroyuki

「土地の記憶－紡ぐヒト－」

さいたまには 2000 年以上続く古社がある。  
そこには自然と英雄に翻弄された娘が神として祭られている。  
しかし今を生きる私たちは、その存在を記憶の彼方に追いやってしまった。  
2023 年、さいたまで国際芸術祭が催される。  
太古の神々を芸術の祭にお招きすべく、お姿の再現を試みた。  
本作が、古(いにしえ)の神々と現代の祭りとを繋ぐ媒体となることをつよく希求している。

1968 東京都に生まれる。  
1995 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了  
1999 第 14 回 富嶽ビエンナーレ展(静岡県立美術館、静岡市) 準大賞受賞  
2003 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2003 (越後妻有 6 市町村、新潟県)  
2006 島の写真屋アートプロジェクト (旧渡辺写真館 倉庫ギャラリー、松江市)  
2015 上賀茂・千年アート展(上賀茂神社境内、京都市)  
2018 石上城行展－記憶にふれるとき－ (川越市立美術館、埼玉県)  
その他、ワークショップやアートプロジェクトの企画・運営に携わる。  
現在、埼玉大学教授

尾形 勝義  
OGATA Katsuyoshi

「線材意識体～空へ～」

素材：鉄線

COVID-19 の感染拡大はお互いのつながりを遮断し、人間を孤立させていった。孤立化に乗じるかのようにデジタル化の波は私たちから身体性を奪い始めているように思える。私はひたすら鉄線を捻って繋いでいくことで、世界とつながろうとしてきた。鉄線の錆色の変化は時間の堆積を伝える。メッキ鉄線はその時々降り注ぐ光をつかまえ煌めく。高低差のある埼玉会館エスプラナードでのインスタレーションは空高く広がっていく。

個展：1982 年 真木画廊(神田)、'95 年 ギャラリー KIGOMA(国立)、'96 年 アマゾンクラブ(大島)、'98 年 ギャラリー KUBOTA(京橋)、'99 年 J2 ギャラリー(銀座)、2016 年 SPC ギャラリー(日本橋)、'23 年 千年画廊伊之助(池之端)

グループ展：2011～'20 年 アートアイランズ国際現代美術展(大島)、'14/'16/'18 年 ART MEETING(いわき市田人)、'15 年以降毎年 平和を考える現代美術展(活水中高校・県美術館：長崎)、'16/'19/'23 年 かがわ山なみ芸術祭(香川)・'17/'19/'21/'22 年 現在進行形野外展(原峰公園：多摩市)、'17/'18/'20/'22/'23 年 企画展(SPC ギャラリー：日本橋)、'18 年 名栗湖国際野外美術展(飯能市)・/'19/'21 年 国際野外の表現展(東京電機大学：東松山)、'19/'21/'23 年 アート in はむら展、'20 年 アーチストセンター展「ヒロシマ 2020」(東京都美術館)、'22 年「大地」(GROUND)ーいまを生きる現代美術作家展(池之端画廊・千年画廊伊之助)、'23 年 NAU21 世紀美術連立展(国立新美術館)・我孫子アートな散歩市(旧村川別荘竹林)

香月 人美  
KAZUKI Hitomi

[2023.10.8. (日) 17:00 ~]

香月人美の詩的実験 I

【目覚めると雷鳴の巢のなかにいた】

世界から私を差し引くものは、誰

沈黙と囁きが、孤立した記憶に呼びかける、もうひとつの詩劇。

[2023.11.4 (土) 16:00 ~]

香月人美の詩的実験 II

【私を呼ぶ狼の声

ーサイセンジガケ、ダラナヨサーー】

夜、また夜――、荒野の呼ぶ声の方へ。

魂が吹き曝しにするものを愛せ。

私は芸術を壁の染みから学びました。

刻一刻と移ろいゆく雲からは無限に変化する力を学びました。光を食べる植物からは、暗い地中に根を下ろしていく勇気を学びました。それらひとつひとつの自然の力が生きている場所を《芸術の野原》と呼ぶことにしています。この場所は各自のあるがままの存在が問われるところなのです。

朗読者 / ギャラリスト / アート・ディレクター

福岡市生まれ。

1990年 福岡市に海に見える世界一小さなギャラリーをオープン。

1991年 赤坂けやき通りに《画廊香月》オープン。画家や音楽家、詩人、舞台作家、映画監督 etc の芸術サロンとして注目される。

1997年 詩と声とダンスのオペラ「オフィリアの遺言」で舞台デビュー以降、舞台芸術の制作 / 上演活動に入る。「私は壊れたがらがらです」「カミーユ・クローデル」「夜の果てへの小さな祈り」「サラよ。サラよ。世界は何から始まるんだ…」「美神忌」尺八 グンナル・リンドル / 京都法然院

2001年 ~ 2004年 『声の福音書』、目覚めると雷鳴の巢のなかにいた』出版記念公演 / 東京、筑波、水戸、京都、大阪、北海道、他

2005年 ~ 2006年 京都に拠点を移し「ダンスのアルブリュット / 生のままのからだの方へ」京都芸術センターにてワークショップ開催。

「身体の裏側 I、II」大野慶人 / 河村悟 / 由良部正美 / 京都芸術センター、大阪精華小劇場

「私を呼ぶ狼の声」アトリエ劇研

「金木犀時代のそよぎかた」歌・演奏 / あがた森魚 / 岡山テトラヘッドロン

大野一雄・慶人舞踏研究所に留学

2009年「ギャラリーは劇場、作品はもの言わぬアクター」をマニフェストに掲げ、超限定芸術サロン《月下の果実會》を原宿に立ちあげる。

2011年 東京銀座に《画廊香月》開設。国内外の ART FAIR に毎年出展。

2016年 - 2019年 ART FAIR ASIA FUKUOKA のエグゼクティブディレクターに就任

「月と太陽 / アリアとカノン」エリダマリア / 福岡アジア美術館ホール

2017年 宇野邦一『土方巽 - 衰弱体の思想』出版記念「稲妻捕り / 香月人美 + 清水晃」両国門天ホール / 東京

2018年 PARK HOTEL TOKYO にて堀越千秋追悼展「美を見て死ぬ」主催。

2019年 世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか?』山口周講演モデレーターを務める。福岡市美術館 / 長崎書店ホール

『目覚めると雷鳴の巢のなかにいた』東京平和教会

『声の福音書』『小さな魂と太陽』逗子第一パプテスト教会

2022年~

詩と声と語りのコラージュ / 朗読パフォーマンス作品で都内のシャンソン倶楽部やコンサートホールに出演。

東京都在住。

高島 芳幸  
TAKASHIMA Yoshiyuki

「関係 oct.2023 in 埼玉会館一埼玉会館中庭に色を注す」

素材 油性ペイント・合板

形状 183×91、91×91 cmのコンパネを中心に

色味 色材・光の三原色を中心に使用

設置構造 色材パネルを中庭全体に設置するインсталレーション

埼玉会館大ホールロビーとその庭の中に、別の位相である色彩を並置させ、色自体と色の持つイメージ力や象徴性をもって、風景…環境…空間…場…記憶、そしてそれらを構成するモノたちの互いの関係に揺さぶりをかける。それらの底に沈んでいるであろう原初のイメージやそれらの欠片、固定・観念化された関係にブレやズレを生じさせながら、色彩と共に新たな場をつくっていく。

1953年 茨城県生まれ。

真木・田村画廊（東京 / 1988 ~ 1999）やギャラリー現（東京 / 2001 ~ 2017）、SPC ギャラリー（東京 / 2003 ~ 2023）、トキ・アートスペース（2020.22 / 東京）を中心に作品を発表。絵画の成立する基本的な要素を、見ることと描くという行為から絵画を捉え直す作品を発表する。並行して野外や日常生活空間を同様に確認していくインсталレーション作品の制作も続けている。最近では MDUS Art Project を日本各地で展開、1945年の松代大本営を起点に場所の歴史や記憶との関係をテーマとするサイトスペシフィックアートとして取り組んでいる。

主な個展

1999「関係 July.1999」（真木画廊 / 東京）88.89.93.95.97.

2003 平面と立体の間 - インсталレーション・高島芳幸 - (うらわ美術館 / 埼玉)

2017「用意されている絵画 - シカクヲカク -」（ギャラリー現 / 東京）01.05.07.09 .10.12.14.16

2019「用意されている絵画 - 視覚・関係・所有 -」（アトリエ・K / 横浜）15.

2022「用意されている絵画 - 日常 / 絵画場へ -」（るーぶる愛知川 / 滋賀）

「用意されている絵画 - イキルシカク - 2」（トキ・アートスペース / 東京）20.

2023 - 『楽風』に入る。ミズモヲカク - (ギャラリー楽風 / 浦和)

高田 芳樹  
TAKATA Yoshiki

「共依存 (Co-dependence)」

すべての事柄は、何らかの関係性を持っているのですか？

出品物のタイトルより

曖昧な磁針・大津隠居 荒床・痕跡-気配-記録 Impression・きわ(際)・ものがたり・恣意的肉塊・曖昧な記憶・キツチュ・福島からの手紙・”抽出 / Switch”・傘はそこに置いて・磁気状況・えそら・暦 Calendar・イゴールの庭・GAP・精神産物構想・「？」と「FUKU」・糸ひもせすん石・カラーチャート・ルーマニアの光の中で・月光醤油の生まれた場所で・30秒の記憶と痕跡・ひるね・概念14号・まなざし・まなざす・その場にありしものたち・樹林帯・水準器・門 GATE・

ホームページ <http://www.y-takata.com>

SNS

<https://www.facebook.com/yoshiki.takata.5/>

田中 千鶴子  
TANAKA Chizuko

## 作品1「向こう側」

材質：鉄板・鋳鉄中抜き立方体・伐採の木

建物の壁とそこにかかった鉄板、その前に並ぶ鉄の立方体、行くのは百日紅の伐採された木。

## 作品2「象・reality」

材質：ステンレス板・ステンレスワイヤー

あるという不確かな真実

- 2002 FREIRAUM(Csograd, ハンガリー) '07(Faro, ポルトガル) 資生堂第5回 ADSP 賞  
2003 国際野外の表現展'03(東松山) 埼玉県 '04  
2009 Open-air 個展(さいたま市大門造成地、'09~'14  
2015 川口市立アートギャラリーアトリア 個展(鋳鉄作品) 第5回アートアイランズ TOKYO/ 国際現代美術展(東京大島)'17 '19(新島/小笠原)  
2016 かがわ・山なみ芸術祭 '16 '17 '22(香川県)  
2017 ギャラリーブロッケン 個展('18 '19 '22)(東京)  
2018 さいたまま会館エスプラナード展 '18 '19 '22  
2019 東京都現代美術館リニューアル・オープン記念展「100年の編み手たち」  
2020 さいたま国際芸術祭・エスプラナード展 彫刻インスタレーション  
2021 せきがはら人間村生活美術館(岐阜県)ランドスケープスケールプチャー(鋳鉄作品)  
2023 どこかでお会いしましたね展 埼玉会館 浦和

中村 幸子  
NAKAMURA Sachiko

## 「土の記憶、陽の記録」

この展覧会は30日間、雨や風など自然の影響を受ける環境下で作品を展示します。

開催日に展示されている作品が完成の姿ではありません。今の姿は今一瞬だけです。

日々刻々と変化し、展覧会最後の時にどのような完成を迎えるのか…。

綺麗なだけではなく、時には見苦しい姿を見せるときもあるかもしれません。

自然と共演する、弱そうで強かな植物のステージの一端をお楽しみください。

さいたま市出身

1993 いけばな龍生派入門 荻原可雲先生に師事

1998 教授免許取得(生花)

1999 教授免許取得(自由花)

2022 ~ エスプラナード展

その他 いけばな龍生展、龍生派第九地区展

荻原可雲社中展、蓮田市文化祭いけばな展

龍生派家元一級教授(生花・自由花) 花名 大野可幸

橋本 真之  
HASHIMOTO Masayuki

## 「橋本真之・現在形2023」

私の仕事は鍛金技術によってもたらされる銅板の張力と凝集力と、そして溶接を併用する事を造形の基としています。その素材と方法によって、作品世界は外部と内部空間とを等価にする膜状組織として重層化し、また連鎖的に増殖展開して構造化する方向に向かっていきます。この作品は展示が終わった後も制作が続くことになります。

(1947- )

埼玉県上尾市に生まれる

2016年「方法の発露2016」展(しいのき迎賓館、石川)

著書「造形的自己変革」出版、(美学出版)

「革新の工芸—伝統と前衛、そして現代—」

(東京国立近代美術館工芸館)

「橋本真之《果実の中の木もれ陽》これまで/これから」

(埼玉県立近代美術館) 企画展示と公開制作

2017年 平成28年度(第68回)芸術選奨 文部科学大臣賞

(美術部門) 受賞

2018年「THE CUTTING EDGE」(GalleryO2、石川)

2019年「方法の発露2019」展(しいのき迎賓館、石川)

「PASSION20」(東京国立近代美術館工芸館)

2020年「方法の発露2020」展—方法の無意識—

(中村記念美術館)

2021年 コレクション「4つの水紋」(埼玉県立近代美術館)

MOMAT コレクション 特別編 ニッポンの名作130年

(東京国立近代美術館)

2022年「扉は開いているか—美術館とコレクション1982—

2022」(埼玉県立近代美術館)

2023年「橋本真之論集—工芸批評の時代」渋谷拓、藤井匡

編(美学出版)

出版記念 橋本真之展(ギャラリー緑隣館、上尾市)

細川 麻実子  
HOSOKAWA Mamiko

## 「層層 — sousou」

私たちは風や水に流され、少しずつ積み上げられていく。

目に見える地上から、見えにくい地下の世界へ。

掘って、掘って、触れて、その感触はどんなものか。

振付家・ダンサー・身体表現

加藤みや子ダンススペースメンバー。埼玉県川口市にて

studioCOMMU 運営。

日常でダンスが生まれる瞬間と共存する身体。

幼少より加藤みや子に師事。ベルギーでのダンス留学を経て、公演

の企画をする傍ら多分野アーティストとの共同創作や、

ダンサー・役者へ振付指導、高齢者身体機能訓練士などその活動

は多岐にわたる。

SJDA ダンスコンテスト第一位グランプリ

振付作品県知事賞受賞、IDO world championship 出場(独)。

ほか振付作品入賞多数

2014- 高齢者との共同制作「ひみつ文庫 vol.1 ~ 3)」「ここかし

こーじいじばあばの動きが旅をする—」発表。

2016- Art Islands TOKYO 国際現代美術展 参加(大島・新

島)

2019-23 文化庁アウトリーチ公演 企画(四国・埼玉)

2021 コラボレーションツアー「ほらあな」主催(長野・京都・滋賀・

愛知・東京・茨城)

2022 埼玉会館エスプラナード展 2022 参加



本多 真理子  
HONDA Mariko

「希望があります。あなたはどうか？ I have a wish. What about you?」

過去の大地震や破局的な出来事（カタストロフィー）はピカソがゲルニカを描き、堀尾貞治は阪神淡路大震災を描きルーシー・リーは大戦中に器が作れない時でも陶のボタンを作り続けた。建築家前川國男は難民避難船の設計に携わった。彼らはカタストロフィーを遠観し後世に意想と記録と修復を遺した。このところ4年ぶりに復活という言葉をよく聞く、すべてに共存しながら今がある。病んだら治す、壊れたら修復する、お腹空いたら何かつくろう。停止することのない時の流れは希望のモノリス。（数字は緯度（lat）経度（lon）、出来事が起こった地点）

1992. 東京芸術大学大学院彫刻専攻修了 埼玉県生まれ  
1995. 「新世代への視点'95」ルナミ画廊 / 東京  
2008~'12 「RED LINE CONNECTION」 TOKI Art Space / 東京 Weissraum / 京都 メタルアートミュージアム光の谷 / 千葉  
2016. 「美術と街巡り」企画：羊の衣は姿を変えて（さいたま市内中学校にてWS&展示）  
2022. 「colors」ぎやらりー由芽 / 東京  
2011, '13 ~ '20 「アートアイランズ TOKYO」 / 東京  
2013. '16 ~ '18 「どこかで出会いましたね展」「美術と街巡り・浦和」青山家、三代目満作、アートスペース 717 / 埼玉  
2018. かがわ・山なみ芸術祭 山の小さな展覧会 / 香川  
2019. '20. '22 エスプラナード展 埼玉会館 '20. 埼玉国際芸術祭 2020 「美術と街巡り・浦和」ワシントンホテル / 埼玉  
2023. 「ビジュツ 行動せよ！展」アーチストセンター展 / 東京

松枝 美奈子  
MATSUEDA Minako

「まにまのあいまに」

見慣れた風景にいつもと違う角度から、合間から、覗き見ることで生まれる新たな景色を。  
視線をなめらかに誘導する埼玉会館のエスプラナードにささやかなコラボレーションとして。

大阪生まれ  
1991年 東京造形大学卒 彫刻科専攻  
主な活動歴  
2022年 埼玉会館エスプラナード展  
花とみどり・いのちと心展  
2017~2023年 アート in はむら展  
2018~2020年 アートアイランズ Tokyo  
2014~2016年 貝塚まちなかアートミュージム  
2009~2015年 中之条ビエンナーレ  
2013年 土湯アラブドアートアニュアル  
2012年 我孫子国際野外美術展

むー村井 知之  
MU・MURAI Tomoyuki

「はなしをききます。」

立ち寄った人々の話を聴きます。

雑家  
近年の主な履歴  
芸術士活動（2009~）  
山なみ芸術祭（2016~）  
kyoto experiment フリンジ（2017~）

柳井 嗣雄  
YANAI Tsuguo

「地上のリゾーム」

素材： 麻、楮、染料  
制作年： 2023年

今まで9つのシリーズ作品を作りました。その中に「樹木」シリーズと「根茎」シリーズがあります。「樹木」が地上界だとすると「根茎」は地下の世界。定住民と遊牧民、あるいは見える世界と見えない世界と言ってもいいかも知れません。  
この作品は後者で、根茎（リゾーム）は勝手に根を張り巡らして地下のネットワークを作ってゆく。リゾームは自由と自律の表象ではあるが、「地上のリゾーム」は地下生活を回想して生きているか・・・

1953 山口県萩市に生まれる  
1982 日本国際美術展（東京都美術館・京都市美術館）  
同'86'90 佳作賞受賞  
1985-90 現代美術今立紙展（今立町、福井）  
同'85'87 佳作賞.'86'89 優秀賞'90 大賞受賞  
1991 立体の紙・身体の紙 -Paper Work  
（神奈川県民ホール・ギャラリー、横浜）  
1991-97 白州・夏フェスティバル（田中泯の身体気象農場、山梨）  
1993 第1回アジア・パシフィック・トリエンナーレ  
（クイーンズランド美術館、オーストラリア）  
1999 和紙のかたち（練馬区立美術館、東京）  
2002 紙のワンダーランド（群馬県立館林美術館、群馬）  
2011 国際ペーパーアート会議（国立国父記念館、台湾）  
2015 反転と回帰（カナダ大使館高円宮記念ギャラリー、東京）  
2021 上海国際ペーパーアートビエンナーレ 2021  
（上海当代芸術博物館、中国）  
2023 柳井嗣雄展 -Rhizome（ガーデンテラス紀尾井町、東京）

作品のご感想を WEB アンケートフォームにてお寄せください。

<https://forms.gle/ZrPJSXBbzcd03doo7>

（↑クリックするとページに飛びます。）

